

発達障害の子ども達を地域でささえる ～小児科医の視点から～

東小岩わんぱくクリニック
小島博之



構成

- ・発達障害のお子さんは多い
- ・(お子さんの発達が気になつたら)どうするか
- ・「様子を見る」はいけない
- ・医療の関わり 専門医だけでは足りない
- ・かかりつけ小児科医の役割
- ・具体例(非公開)
- ・保育園時代が大切(小学校に入る前)
- ・地域全体で支える

発達障害のお子さんは多い

- 2012年文部科学省調査：発達障害のために特別な教育上の配慮が必要な子は、通常学級に在籍する生徒の6.5%（約70万人）
- 自閉スペクトラム症（ASD）：1～2%
- 注意欠陥多動症（ADHD）：3～5%
- 限局性学習症（LD）：1～2%
- 全体の約1割に認める（江戸川区 概算8千人）
- 多くが成人までもちこす～一生の問題

乳幼児期で気になるきっかけ

- 睡眠リズムの障害：ひどい夜泣き、入眠障害
- かんしゃくが激しい、パニックになる
- 飲まない、離乳食を食べない、偏食がひどい
- 常に走り回っている、友達をたたく
- 言葉がでない、遅い
- 触られることや特定の音に過敏
- 集団行動がとれない、独り遊びが好き

(お子さんが気になつたら) どうするか

早期診断・早期治療

ではなく

早期発見・早期支援(療育)

療育：個々の発達の状態や障害特性に応じて、
今の困りごとの解決と、将来の自立と社会参加を
目指し支援すること



療育

「子どもの特性を限りなく定型の発達に
近づけていく治療」

ではなく、

「子どもに特別の努力や訓練を求めるのではなく、
いろいろな状況で要求される課題を周囲の人が
工夫することで、子どもが日常生活の困難に
対応できるように配慮する」

地域全体で行う活動

療育について

○ABA(応用行動分析)

発達相談支援センター ADDS

- ・褒めて伸ばす(強化)
- ・手助けして成功体験をさせる(プロンプト)
- ・どんな状況でも正しい行動がとれるようにする(般化)

○TEACH

構造化

- ・物理的構造化
- ・視覚的構造化
- ・スケジュールの視覚化
- ・ワークシステム

○ペアレントトレーニング

まめのきクリニック

行動変容を目的として、親が褒め方や支持などの具体的な
養育スキルを獲得

実践ガイドブック (厚労省) [000653549.pdf \(mhlw.go.jp\)](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku-attach/000653549.pdf)



気づいてあげたい「発達障害のサイン」

3歳までの行動チェック

- ・視線を合わせない
- ・言葉を覚えない、話さない

小学校入学前の行動チェック

- ・かんしゃくを起こしやすい
- ・何度も同じ行動を繰り返す
- ・集団行動や運動が苦手

小学校低学年の行動チェック

- ・先生の言うことが聞けない、集中できない
- ・忘れ物が多い
- ・規則やルールが理解できない
- ・文字が読めない、計算ができない

「子どものこころ」相談医

日本小児科医会

子どもの心理発達の基礎、様々な行動の問題、
発達障害、虐待、薬物依存、メディア漬けなどについて
幅広くかつ専門的に研修を重ねて日常的に外来診療で
遭遇する子どもの心の問題に対応できる
「子どもの心」相談医を養成。

全国で約1000名の相談医が認定(江戸川区 6名)

<http://www.jpeda.or.jp/soudanimeibo02.html>

「子どものこころ」相談医

日本小児科医会

言ってはいけないこと

「様子を見ましょう」



どこに相談するか

公的機関を積極的に利用しましょう
+
かかりつけ医



江戸川区の相談窓口、支援体制

健康サポートセンター： 子ども（発達）相談

発達相談・支援センター ADDS

発達相談室「なないろ」

<サポートファイル「にじ」>

https://edo-hssc.jp/?page_id=183

乳幼児施設巡回支援事業：心理相談員が派遣
(施設職員向け)

障害児通所支援：児童発達支援（育成室、民間事業所、
放課後等デイサービス）

児童相談所はあとポート

発達障害支援の流れ:「早期発見・早期支援(療育)」

江戸川区 発達障害支援 情報ガイド

早期発見

相談

支援

乳幼児期

- [健康サポートセンター
の健診事業]
○1歳6か月時歯科健診
での発達に関する質問票

幼稚園・保育園

- [気になる子の発見・
支援のための事業]
○乳幼児施設等巡回支援事業
○専門家チーム派遣
○保育園発達支援
コーディネーター配置

小学校・中学校

- [各学校の対応]
○特別支援教育コーディネーター
○スクールカウンセラー派遣
○校内委員会の実施
[学務課相談係]
[教育研究所] 学校サポート教室

発達障害相談センターの相談

児童相談所はあとポート

- [児童発達支援センター]
1歳6か月児～就学前
○障害児相談支援
○個別療育
○集団療育
○保育所等訪問支援

民間 児童発達支援

- [区立事業所: 育成室]
1歳6ヶ月児～就学前
○個別療育
○集団療育

民間 放課後ディ

- エンカレッジルーム
○特別支援教室での
巡回指導

tums
TOWAKAI UNIVERSAL MEDICAL SERVICE

発達障害について

- 生まれつきの障害で、脳の機能になんらかの不具合があるために不適応の状態が起こる
- 親の育て方や本人の性格とは無関係

「発達の凸凹」

判断 -社会生活を送る上で問題が生じているか-

(サポートのゴール)

特性を消すことではなく、社会生活上の困難や家庭生活の困りごとを減らすこと、将来の社会参加のチャンスを減らさないようにすること



周囲の人の適切な対応と支援が必要

発達障害について

○自閉症スペクトラム障害(ASD)

以前は「自閉症」「広汎性発達障害」「アスペルガー症候群」
⇒連続体(スペクトラム)ととらえられるようになった。

- 3つの特徴
 - ・コミュニケーションの障害
 - ・社会的なやりとりの障害
 - ・こだわり行動

○注意欠陥/多動症(ADHD)

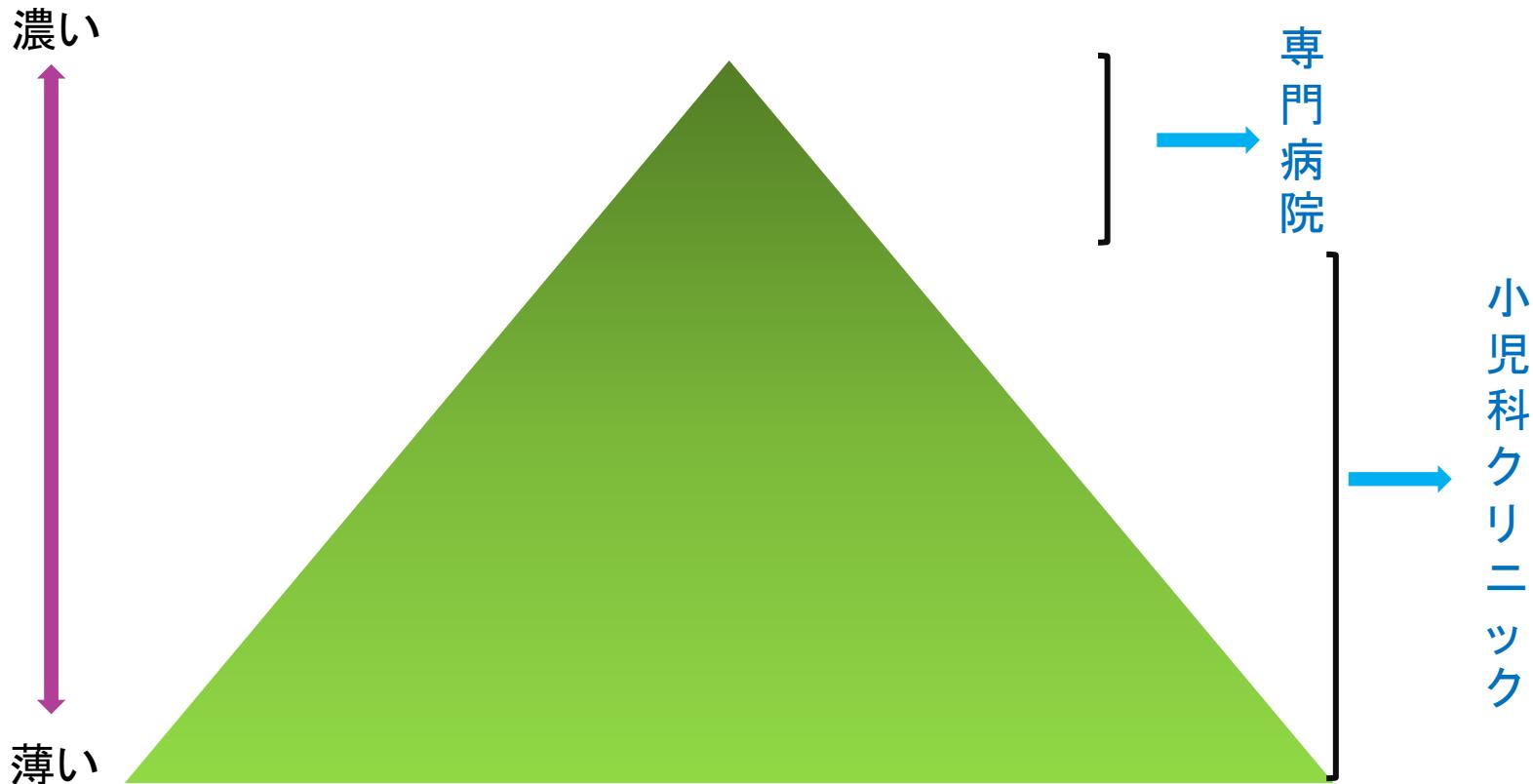
「不注意」「衝動性」「多動性」
集中力がない、落ち着きがない、忘れ物をする

○限局性学習症(LD)

「読む」「書く」「計算する」「話す」など、学習力の習得に
時間がかかる

☆3つが併存することもある

医療機関の関わり



疾患ピラミッド(イメージ)

小児科医の仕事

1. クリニックでの業務

診察

予防接種・健診

2. 集団健診(3ヶ月・3歳)

3. 園医・学校医

⇒「気になる子」の存在



tums
TOWAKAI UNIVERSAL MEDICAL SERVICE

かかりつけ医ができること



- 「気になる子」の存在に気づき、つなげる

リエゾン

意見書・紹介状を作成する

- 困りごとの相談にのる
- 一緒に成長に寄り添う
(一緒に成長する)



小学校に上がる前(保育園・幼稚園)が大切

小1プロブレム

(学校生活になじめない状態が続くこと)

集団生活になじめない

授業中にじっとしていられない

先生の話を聞かない

⇒幼保小連携が大切

「切れ目のない支援」

<サポートファイル「にじ」>

https://edo-hssc.jp/?page_id=183



特別支援教室

特別支援学校：障害による困難を克服し自立を図るために必要な知識技能も学ぶことができる学校

特別支援学級：通常の学校の中に設置されたクラス

通級：週に何時間か通級指導教室に移動して支援・指導が受けられるクラス

適応指導教室：長期欠席をしている小中学生が、通っている学校とは別に用意された部屋で復帰に向けて学習支援を受ける教室

不登校のお子さんは増えている

小・中学校における長期欠席者 令和2年（文部科学省）

不登校児童生徒数 196.127人（前年度 181.272人）

8年連続で増加し、過去最多となった。（8.2%増）

（小・中学校のいじめ認知件数）

446.544（前年度 591.069）

7.6%減



(お子さんが気になつたら) どうするか

早期診断・早期治療

ではなく

早期発見・早期支援(療育)

メッセージ:保育園・保育士・かかりつけ医
からの言葉は無視しないようにしましょう

どこに相談するか

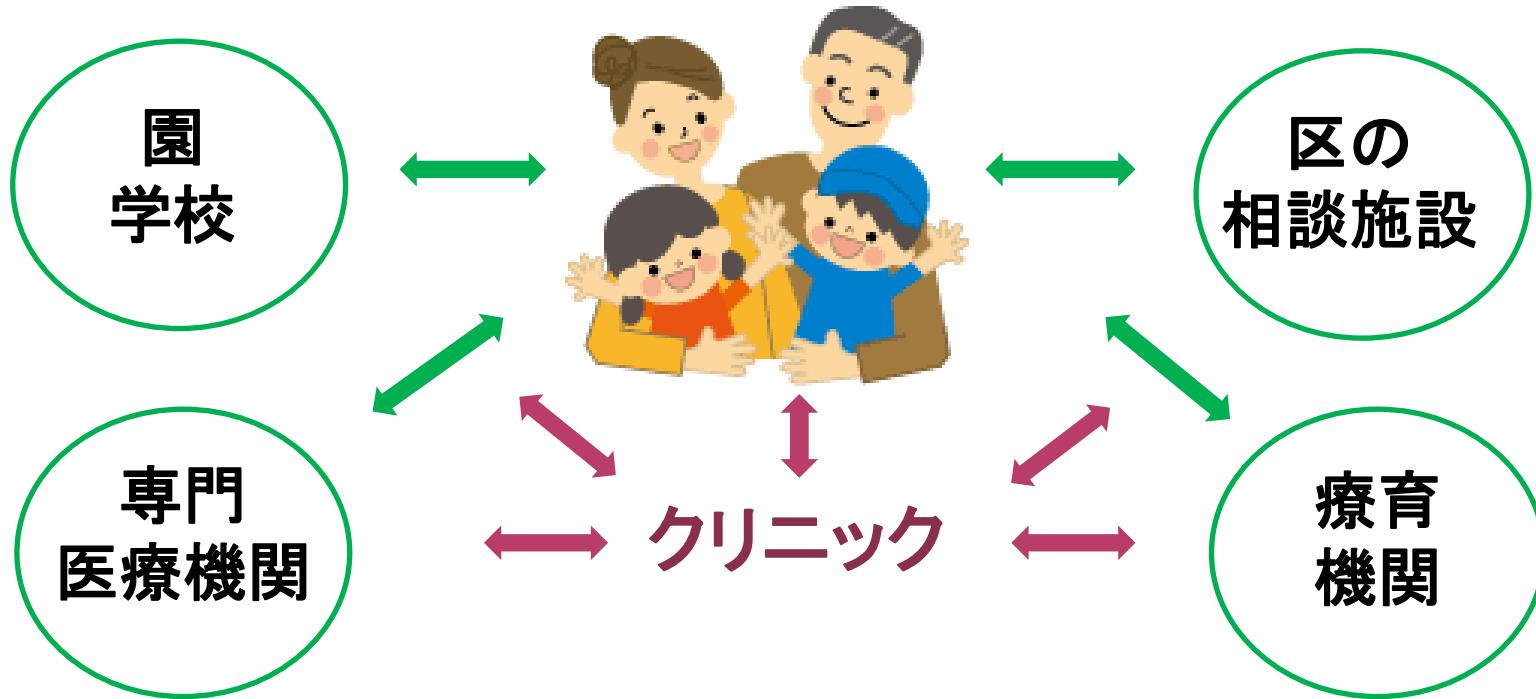
公的機関を積極的に利用しましょう

+

かかりつけ医

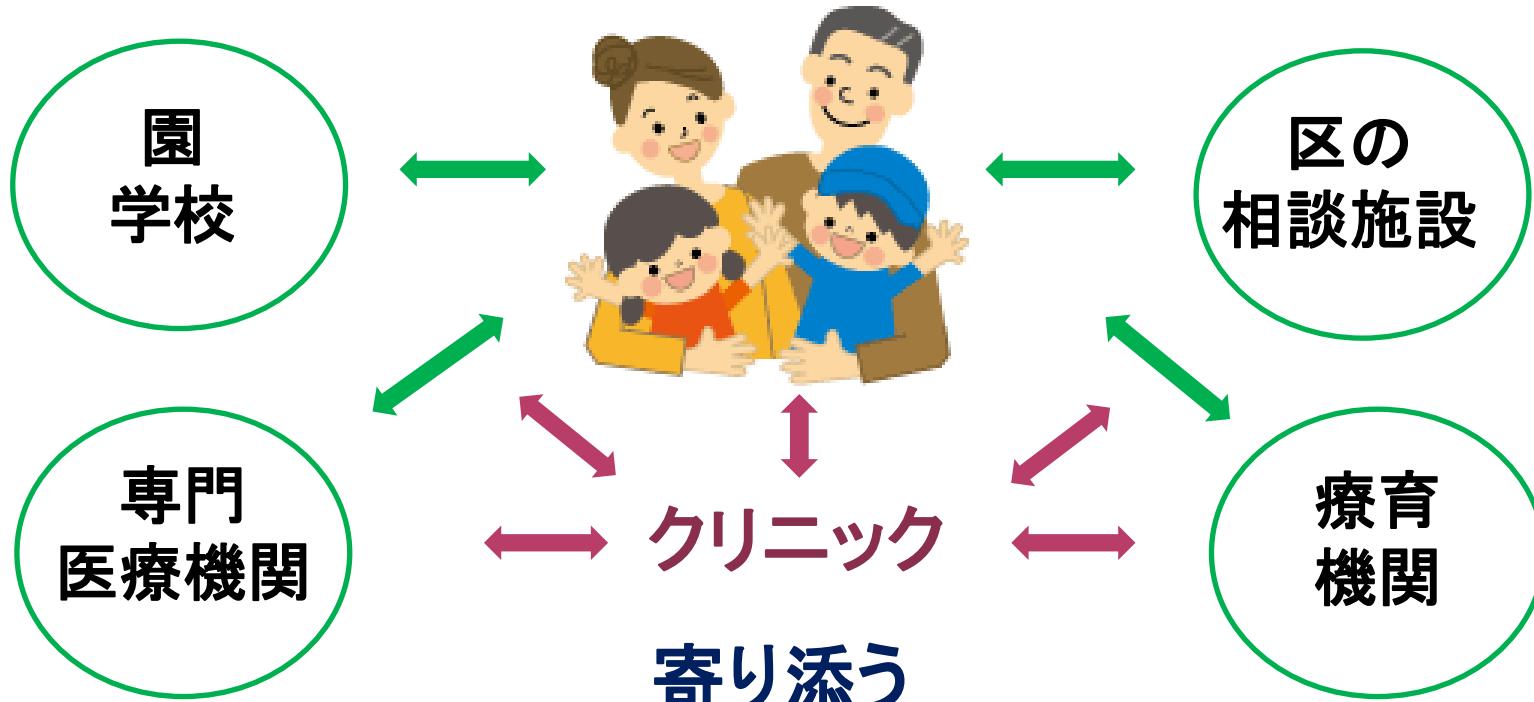


かかりつけ小児科医ができること



つなげる
リエゾン

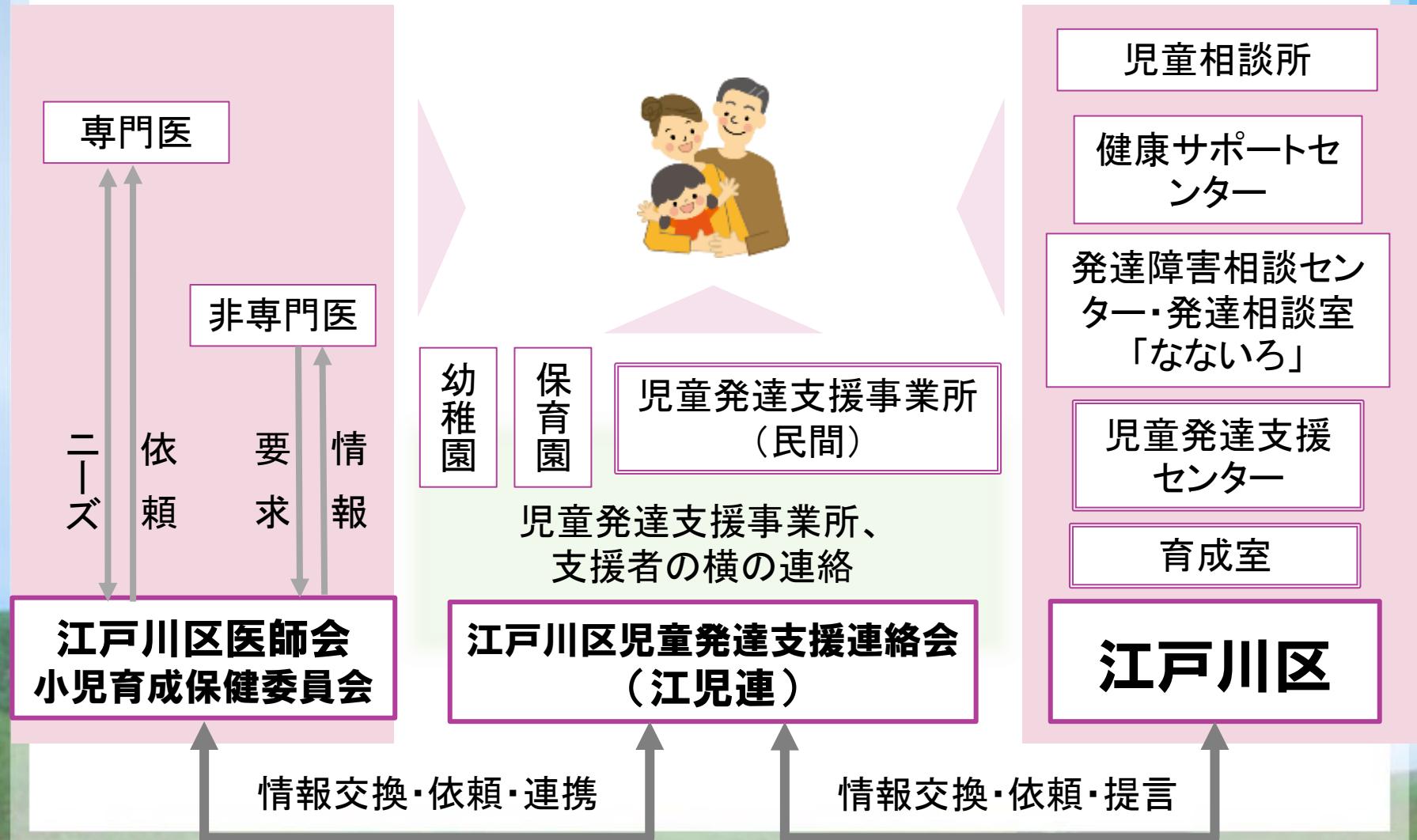
かかりつけ小児科医ができること



自尊心を持って大人になれること

オール江戸川で発達支援

– 支援を必要とする子どもと保護者の幸せのために –



知っておいて欲しいこと

tums
TOWAKAI UNIVERSAL MEDICAL SERVICE

慢性的な睡眠不足

日本の子どもは、世界で最も睡眠時間が短い。
質の良い十分な睡眠は子どもの発達を即す。

「十分な睡眠がとれない」

⇒発達障害に類似した行動様式をとる

「後天性発達障害」

「つくられた発達障害」

早寝・早起き→早起き・早寝

「朝日を浴びて(＋朝食)、体内時計をリセット」

テレビとスマホが及ぼす影響

乳幼児期にテレビやビデオに長時間接することは、
子どもの発達に好ましくない

:日本小児科学会 「映像メディア漬け」

言葉の発達を損ない、親子の絆を紡ぐ時間と空間を奪う

⇒「言葉が遅い」

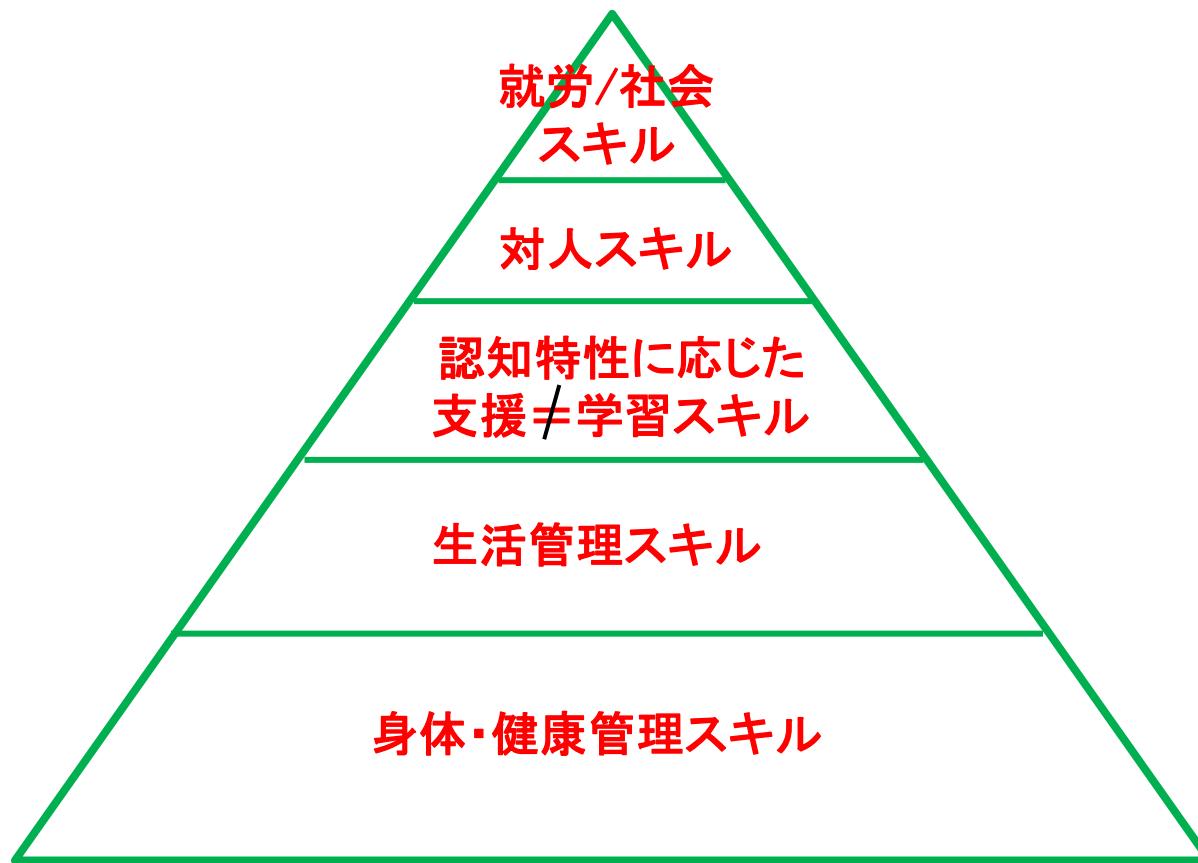
「コミュニケーションがとりにくい」

「攻撃的な行動をとりやすい」

人一倍敏感な子(Highly Sensitive Child:HSC)

- **D (プロセスの処理が深い)**
- 少しの情報から多くのことを察したり、周囲の空気を敏感に察知したりする能力のことです。先々のことまで考えを巡らせてしまうため、間違うことを恐れ慎重になりやすい傾向があります。
- **O (刺激を強く受けやすい)**
- 受ける刺激がHSCでない人より強いです。暑さや寒さといった環境の変化に弱く、痛みも感じやすいです。音や臭い、肌触りなどにも敏感で、チクチクした肌触りの服などが苦手です。刺激が多いところではすぐに疲れてしまいます。
- **E (感情的な反応が強い)**
- ポジティブな感情、ネガティブな感情の両方に強く反応します。HSCの子供は、怒られているのが自分でなかったとしても、ほかの子が怒られているのを見て自分も怒られているように感じてしまいます。
- **S (微妙な刺激に対する共感と敏感さを持っている)**
- 他人の機嫌の機微を察することができます。また、他人の髪型や周囲のちょっとした環境の変化などにも気付きます。

発達障害者支援の階層ピラミッド



古庄純一: 発達障害サポート入門

構成

- ・発達障害のお子さんは多い
- ・(お子さんの発達が気になつたら)どうするか
- ・「様子を見る」はいけない
- ・医療の関わり 専門医だけでは足りない
- ・かかりつけ小児科医の役割
- ・具体例(非公開)
- ・保育園時代が大切(小学校に入る前)
- ・地域全体で支える

ご清聴ありがとうございました

